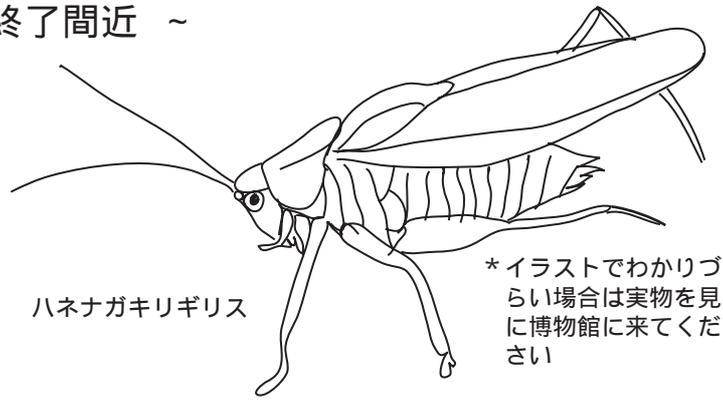


～ 知床博物館ロビー展「知床の昆虫」終了間近 ～

7月24日から開催していた博物館ロビー展「知床の昆虫」が8月28日で終了します。

展示物の主なものは、小清水町在住の昆虫研究家で蛾類学会会員の川原進さんが知床をフィールドとし1999年から2003年までに知床半島や斜里町内で採集した昆虫約500種類。1998年から2000年の間、知床の昆虫調査の目的で蛾類を中心に採集した北見市在住の村松詮士氏の標本約250種類。1975年から1986年までの間に斜里高等学校生物部が斜里岳や海岸砂丘および平野部などで採集したおもに地表性甲虫の標本の一部（1977年、1986年、1987年）約22種類を展示しています。また、2001年、博物館周辺に仕掛けたハチ用トラップで採集した中から大型のスズメバチ約6種類の標本なども展示しています。特に、スズメバチはこれから巣を作る時期になり活発に動き回るようになります。このため、野外で人との接触も多くなりますので、この辺にはどのようなスズメバチがいるのかなども参考になるのではと思います。

このほかには、生きた虫の展示も行っています。おもに、キリギリスやバッタの仲間を中心とした構成になっています。一般的に斜里や北海道の中でキリギリ



ハネナガキリギリス

*イラストでわかりづらい場合は実物を見に博物館に来てください

スといっているものは、正しくは本州にいるものより羽が長く、ハネナガキリギリスと言う種類です。また、日本ではオホーツク海沿岸の草原でのみ見ることのできるカラフトキリギリスも生体展示していましたが、残念ながら先日死んでしまいました。他にも、コバネヒメギスやハネナガフキバッタなど皆さんが一度は見たことのある虫も展示しています。

知床にいる虫以外にも、南の島などにおいて一見すると木の枝のようなアマミナナフシや、学校の理科の教科書にも出てくる鳴き声のととてもきれいなスズムシもいますので、まだ見ていない人はぜひともこの機会をお見逃しなくおいで下さい。（松田功）

＊＊ 来運1遺跡見学会実施のお知らせ ＊＊

「来運の水」は阪神淡路大震災の時にも利用され、知る人ぞ知る名水となっていますが、この来運の水のある来運地区で5月から発掘調査を実施していました。豊富な湧水やそこに集まる豊かな動物の環境に恵まれ、縄文時代から人々が生活していた跡が数多く残されています。

今回の調査で縄文早期（8,000年前）から中期（4,000年前頃）の住居や昔の川跡などが見つかりました。このほか、今まで北海道では明らかにされていなかった縄文時代の貴重な住居跡も発見されました。そこで、今回、この発見された住居跡の見学会を下記の通り実施しますので、ぜひともこの機会にご参加ください。（松田）

日	時	平成16年9月12日（日）
		1回目 9：30から10：30まで
		2回目 11：00から12：00まで
集合・解散		知床博物館前
定員		1・2回目とも各50名まで （小学校低学年以下は保護者同伴）
参加費		無料
申込受付日		9月1日より
		*参加される方は必ずお申込ください



連絡とお願い 当日、バスにより現地まで送迎いたします。現地は駐車場がないのでマイカーでの見学はご遠慮願います。また、現地は個人の所有地ですので、現場での指示に従い土地所有者の方に迷惑をかけないようお願いいたします。

今年の夏は暑かったですね。暑い暑いと思っていたら、もう秋の気配を感じるようになりました。今月号では来運1遺跡見学会のお知らせをしました。なかなか見ることのないこのチャンス、お見逃しのないよう是非ご参加ください。

発行 斜里町立知床博物館協力会 2004.8.25
099-4113
北海道斜里郡斜里町本町49 斜里町立知床博物館内
TEL:01522-3-1256/FAX: 3-1257
<http://www5.ocn.ne.jp/~museumsp/>